

カラー 特集 1

平成18年度全日本選手権大会

カラー ハイライト 16

第4回世界ジュニア選手権大会

優勝インタビュー 18

水谷 隼(青森山田高)、平野早矢香(ミキハウス)ほか

大会記録 22

平成18年度全日本選手権大会

チャンピオンズテクニック 32

水谷 隼(青森山田高)

平野早矢香(ミキハウス)

大会ハイライト 36

2006ITTFプロツアーグランドファイナル

日本の肖像 38

速山 勝(株式会社中外社長)



福岡大学、岩田屋で活躍していた原井健臣氏が、1月5日、福岡市に原井スポーツ卓球場をオープンした。カおり夫人と維生君、創旦君の息子さん

この人のこの言葉 40

藤井基男(卓球愛好家)

アープでワープ 42

山中教子(サウンド球貴代表)

各地ラージボール大会 53

- ピンポン東西南北 43
- 第5チャンネル 44
- 各地レポート 46
- みんなのコーナー 56
- 編集室 56

◆ ニッタクのHPが2月1日から英語、中国語、韓国語でも見られます。http://www.nittaku.comへ ◆

Message

全日本選手権大会は、男子は水谷隼選手(青森山田高)が優勝。女子は13歳の石川佳純ちゃん(ミキハウスJSC)が中学生で初めてベスト4に入った。

これまで両選手については、何度か紹介してきたが、今回は技術・戦術部分以外で二つ紹介したい。

一つ目は、「姿勢」がきれいということである。基本姿勢が高く、自然体。そして、身体に余分な力が入っていない。ラケットはほんとに軽く握っている。

二つ目は、「時間・空間」のとらえ方が違うということである。

時間については、今月号の「アープでワープ」の中で、山中教子さんが「水谷選手は時間がゆったりあるように感じるのです。…相手のボールが速くてもゆっくりでも、その時間にとけ込んでいるので、たくさんあるように感じるのです…」と紹介しているように、両選手にはゆと

りが感じられる。

空間については、コート上だけを意識するのではなく、コートの周り前後左右、もっと大きく言えば会場全体の「空間」を意識しながら、プレーしているように感じられた。

そこまで意識をしながらプレーをしているか、確認していないが、無意識のうちにしているのではないか。

全国の若い選手にお願いしたいことは、両選手のプレーを模範に、勉強して欲しいということである(最初は真似から入ってもいいと思う)。

そのときに気をつけることは、いいボールが決まった、とボールの行方を意識するのではなく(行方も大事だが)、それよりもどのように身体を使ったのか。上半身は、下半身は。足首は、膝は、股関節は…。ということである。

とらえ方が大きく変わるかもしれない。(片野)